

資料紹介

防衛省戦史部図書館所蔵・軍事輸送関係資料について

長岡大学教授 児嶋俊郎

はじめに

防衛省戦史部図書館には敗戦後まもなく整理が始まった、軍事鉄道輸送関係資料がおさめられている。これら資料は、1946-47年ごろ、旧陸軍の運輸担当の将校によって、軍事鉄道史編纂を目的にしてまとめられたものである。以下においてはこれら資料の概要を紹介する¹。

1 収集された資料の背景について

関係の資料目録カードは、カードボックス18に入っている。図表1はその目録である。内容的にきわめて貴重なものを多く含む資料群であるが、これら資料はどのような経緯で収集されたのであろうか。

これら資料のうち、「軍事鉄道記録」(全6巻及び、雑1から3巻)に関しては、資料の来歴に関して、河村弁治²が残しているものがある。「軍事鉄道記録」第一巻³冒頭の「軍事鉄道記録編纂に関する経緯並その経過」である。この資料からは敗戦後まもない時期に旧陸軍の鉄道輸送関係将校が資料収集と鉄道史編纂にかかわったことが分かる。また資料収集の基本的視点や方針等も伺うことができるのである。本稿では本資料によって、この資料が整理された経緯と、そこに示された旧陸軍軍人の観点を紹介し、その上で残された資料について簡単に紹介したい。

河村によれば敗戦直後から「同志相図り鉄道史の編纂を高唱したが」混乱の中で遅々として進まず、その間運輸省に新設された調査局の事案に含めて約一年間資料の収集に努めたという⁴。

その後復員局整理部の担当案件となり、「その指導援助の下に」仕事を進めた。ただ資料はオリジナルが乏しく、主として「記憶をたどり記録したもの」であ

り「全部の正確を期すことはできない」状態であった。その折、復員局資料整理部の主催の下、関係者が集まって各自が提出した資料の内容の検討を行い、その後の資料・戦史編纂のための基礎作業を行った。河村のこの文章はその作業直後に書かれたものと考えられる。

図表1に挙げた資料がすべてこの時河村らが関係した資料とはいえないが、少なくとも軍事鉄道記録第一巻から第六巻、雑各編、鉄道作戦記録等はこの時、及びその後関係した作業の結果と思われる。

なお軍事鉄道記録各巻には目次が付されているが、目次が書かれているページの下に資料整理の経緯をうかがわせる記述があり、それは次のようなものである。

「昭二四 ^{一字不明} ○ 一復 (由第九課)
昭三五、二 田口 一括整理
昭四二、二 資料係 (・・・) 整理」

すなわち、最初に整理したのは、1949年、第一復員局⁵第9課であり、これは河村が先の資料の中で記述した作業の結果、あるいはそれを受けてのものと考えてよいだろう。その後1960年、1967年に二回整理が行われているが、これは防衛庁が設置され戦史室が整備されていくのに対応した措置だと考えられる⁶。

また同じカードボックス18にはこれら以外にも鉄道関係資料がおさめられている (図表1参照)。その中でも興味深いのは、「状況報告 第二野戦鉄道司令部 昭和十四年一月五日」(支那／支那事変・北支／717)と「内地鉄道復員関係資料」(文庫／柚／470)である。

前者は支那派遣軍隷下の鉄道部隊司令部 (中国占領地域担当)としての記録であり、戦後関係者が集まり部隊史を編纂した際に集められた資料である。

後者は内地関係の鉄道諸機関の復員関係資料を集め

図表 1 防衛研究所図書館所蔵・戦時鉄道輸送関係資料

中央	全般・鉄道	1	軍事輸送 一巻	
中央	全般・鉄道	2	軍事輸送 二巻	
中央	全般・鉄道	3	軍事輸送 三巻	
中央	全般・鉄道	4	軍事輸送 四巻	
中央	全般・鉄道	5	軍事輸送 五巻	
中央	全般・鉄道	6	軍事輸送 六巻	
中央	全般・鉄道	7	軍事鉄道記録 第1巻	
中央	全般・鉄道	8	軍事鉄道記録 第2巻	
中央	全般・鉄道	9	軍事鉄道記録 第3巻	
中央	全般・鉄道	10	軍事鉄道記録 第4巻	
中央	全般・鉄道	11	軍事鉄道記録 第5巻	
中央	全般・鉄道	12	軍事鉄道記録 第6巻	
中央	全般・鉄道	13	軍事鉄道記録 雑の一	
中央	全般・鉄道	14	軍事鉄道記録 雑の二	
中央	全般・鉄道	15	軍事鉄道記録 雑の三	
中央	全般・鉄道	16	軍事鉄道記録 雑（内地関係）防空・戦史	
中央	全般・鉄道	17	軍事鉄道記録 雑（内地関係）防空・戦史	
中央	全般・鉄道	18	軍事鉄道記録 雑（満州関係）満州関係鉄道戦史	
中央	全般・鉄道	19	軍事鉄道記録 雑（満州関係）満州関係鉄道戦史	
中央	全般・鉄道	20	軍事鉄道記録 雑（支那関係）支那関係鉄道戦史	
中央	全般・鉄道	21	軍事鉄道記録 雑（支那関係）支那関係鉄道戦史	
中央	全般・鉄道	22	軍事鉄道記録 雑（支那関係）支那関係鉄道戦史	
中央	全般・鉄道	23	鉄道作戦記録（第1復員局）	
中央	全般・鉄道	24	鉄道作戦記録（第1復員局）	
中央	全般・鉄道	25	鉄道作戦記録（第1復員局）	
中央	全般・鉄道	26	鉄道作戦記録（第1復員局）	
中央	全般・鉄道	27	鉄道作戦記録（第1復員局）	
中央	全般・鉄道	28	日満間海上輸送ノ諸問題	満鉄本社調査部社業調査案
中央	全般・鉄道	29	西伯利鉄道及日露戦役間輸送の概要 兵要地学	古川中佐
中央	全般・鉄道	31	満州の鉄道	参謀本部
中央	全般・鉄道	32	本庄関東軍司令官よりの内田満鉄総裁に対する懇談事項要旨	関東軍
中央	全般・鉄道	33	支那鉄道問題資料（満州）	外務省アジア局一課
中央	全般・鉄道	34	満州事変における支那鉄道の沿革	第1復員局
中央	全般・鉄道	35	昭和十六年度鉄道統計速報	満鉄調査局資料課
中央	全般・鉄道	38	ビルマ作戦鉄道旅客列車時間表	満鉄東亜経済調査局
中央	全般・鉄道	39	ビルマ作戦鉄道史	今村一二
中央	全般・鉄道	45	対南方軍鉄道運営関係報告回答綴	第37軍政部陸運班
中央	全般・鉄道	46	南方鉄道状況書綴	第37軍政部陸運班
中央	全般・鉄道	47	鉄道状況報告 昭和19年1月から9月まで	第37軍政部陸運班
中央	全般・鉄道	53	鉄道作戦記録	第1復員局
中央	全般・鉄道	54	満州朝鮮野戦鉄道関係資料綴 昭和16年11月30日～18年2月1日	
中央	全般・鉄道	57	第四鉄道監部関係資料	
中央	全般・鉄道	58	湘桂作戦鉄道戦史	今村一二
中央	全般・鉄道	64	鉄道防空	河村弁治
中央	全般・鉄道	68	満州国鉄道列車運行表 昭和18年10月1日	
中央	全般・鉄道	71	第一次南満州鉄道株式会社の性質	岡松参太郎
中央	全般・鉄道	72	膠済鉄道に有する本邦利権に鉄道経営の現況と将来の観察	参謀本部
中央	全般・鉄道	73	華中鉄道沿革史	関根得右衛門編著
中央	全般・鉄道	78	鉄道軍事輸送二関スル件通牒	第一鉄道司令官
中央	全般・鉄道	80	鉄道関係機材概要	第三陸軍技術研究所
中央	全般・鉄道	82	局面認定に関する綴	
中央	全般・鉄道	83	本土における鉄道に関する報告	
中央	全般・鉄道	85	戦時陸軍鉄道官衙及びその業務	阿久井資料
中央	全般・鉄道	86	第二回大陸鉄道輸送協議会議事録	大陸鉄道輸送協議会
中央	全般・鉄道	87	鉄道作戦記録	復員局
中央	全般・鉄道	89	「極秘」西伯利鉄道路線図	
中央	全般・鉄道	92	満鉄会社関係条約および契約集別冊	満鉄
中央	全般・鉄道	96	既往戦役における鉄道隊の鉄道業務	野村義孝
中央	支那事変・上海・南方	391	中支鉄道関係資料	
中央	大東亜戦・北支	408	北支軍鉄道機材類現地修理計画書	鉄道機材第2修理班班長

たものであるが、資料の破損状況がひどく、又綴りの状態が良くないため複写ができない。しかし敗戦時の鉄道諸機関の一覧⁷（図表2参照）など、貴重な資料が含まれている。いずれも「軍事鉄道記録」編纂の過程で集められた資料の一部だった可能性もある。

なお史料編纂関係の原稿は以下のとおりであり、1946年6月から47年の6月頃まで作業が行われたことが分かる。

- ①「別冊 鐵道史實調査要領（案）」1946年6月
- ②「別紙 鐵道戰史資料調整分担（案）」1946年8月5日
- ③「鐵道戰史資料蒐集計畫」1946年10月1日

④「第二期資料蒐集計畫」1947年6月頃(?)⁸

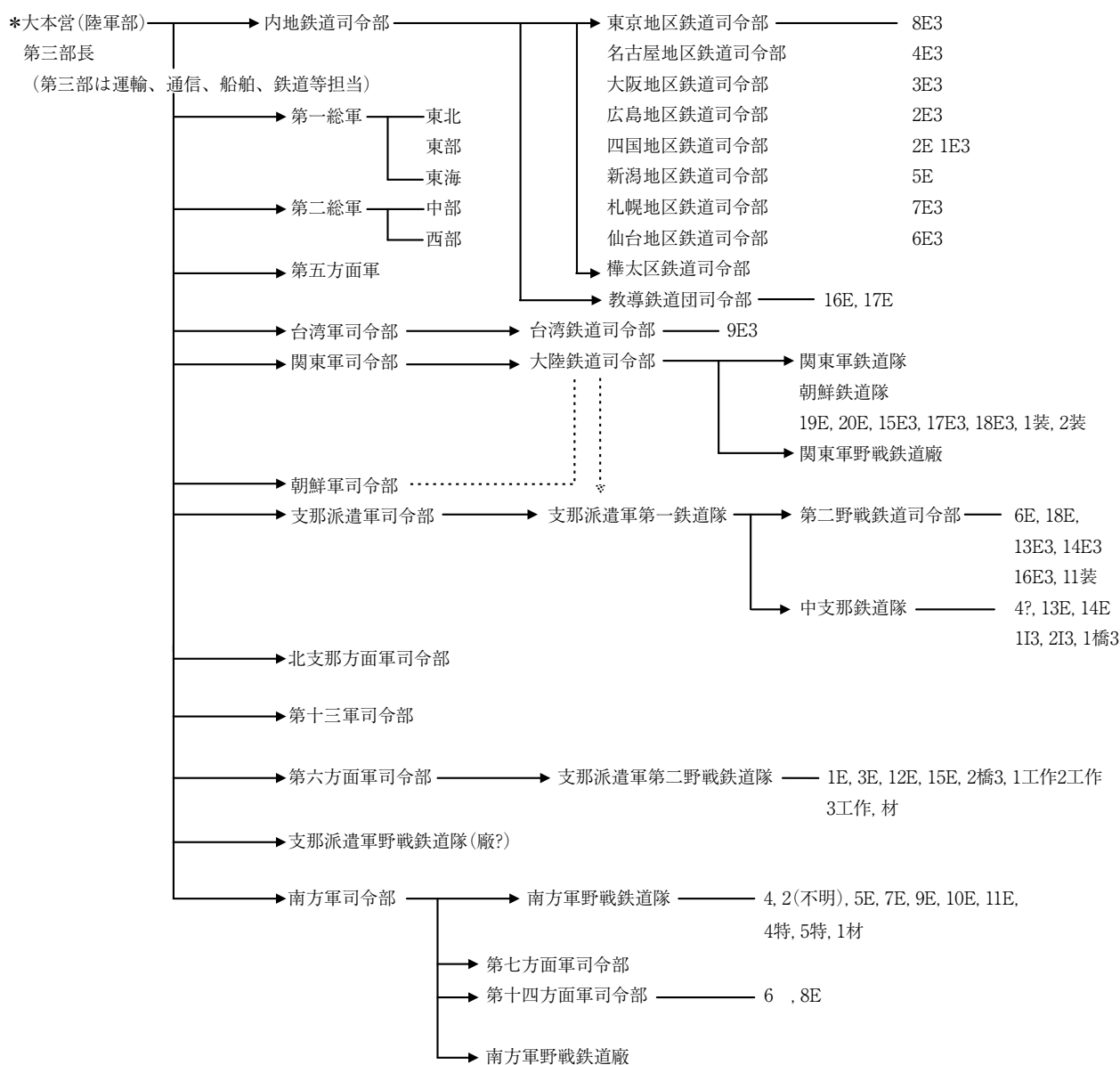
当然時間の経過とともに、当初の予定は変更されていくが、以下において簡単に編纂の経緯と、編纂の目的、目指した内容についてみていくこととする。

2 資料編纂の観点と構成

(1) 史料編纂の目的と観点

まず上記①の資料に即してみよう。河村は「交通運輸は総力戦指導のため諸施策の総合的具現実行機関であり、これか史実を視れば作戦はもとより、国策

図表2 敗戦時における旧陸軍鉄道関係諸機関



指導の實を読み得るのである」⁹と述べている。輸送の実態を記録することで、作戦だけでなく、総動員体制下の国策全体を浮かび上がらせ得ると考えて、鉄道史の編纂にのぞんでいたといえよう。

そして軍事鉄道史編纂の目的等については次のように整理している¹⁰。

まず調査の目的は日中戦争、アジア・太平洋戦争などについて「事變処理、戦争遂行上実施シモシクハ経験セシ鐵道関係事項ヲ調査収録シテ其経緯ヲ明ラカニシ新日本建設ノ参考資料タラシムルト共ニ史實トシテ整備ス」としている。戦時下での経験を「活かそう」と考えていたことがわかる。また戦史整備の一環としても必要だと考えていた。

次に調査範囲として「支那事變、大東亜戦争間ヲ通シ 日本勢力下ニ在シ鐵道（鐵道ニ直接関連スル所要ノ港湾、自動車及之ニ関連スル道路、水運ヲ含ム）ニ關シ調査収録ス、滿州事變間ニ於ケルモノハ主トシテ滿洲ニ於ケルモノニ止ム」として、滿州事變からアジア・太平洋戦争終結まで、全占領地域の鉄道を中心とする輸送関係機関を取り上げることとした。

三番目に調査・編纂方法についてである。ここではまずこの件を取り扱うのが運輸省鉄道総局総務課である、としている。そして関係事項を収集の上暫時整理し、重要なものを「史料」として残すとした。

そのため運輸省内外の、「現場、舊軍部、外地鐵道関係ノ適任者ニ」資料提供を求めるとした。収録事項

については別途定めるとしている（後述）。

最後に「調査収録上ノ着意事項」として次の諸点をあげている。一つ目は、「国策、国防、経済トノ関連並調和ノ程度」。二番目は「鐵道ノ総力戦即應態勢ト軍事上ノ要求充足ノ程度」。三番目は、「外地鐵道處理ノ方針」。四番目は「海運及爾他ノ陸運トノ関連ニ於ケル鐵道ノ使命遂行ノ程度ト主要施策実行ノ程度」。五番目は、「本土決戦ノ為ノ鐵道特ニ輸送及防空関係事項、将来対策等」となっている。

総力戦に対応しつつ、統制があらゆる面で強化される中、広大な線域を連絡する役割を担った当事者の問題意識がよく表れているといえよう。実際このような問題意識は、史料収集の方針に反映されていくのである。

（2）調査予定項目

1）調査予定担当者と調査項目－基本的観点

次に②「別紙 鐵道戦史資料調整分担（案）」によって調査予定だった項目と当初予定されていた担当者を見ておこう。図表3「鐵道戦史資料調整分擔（案）」がそれである。

これによれば滿州事變、日中戦争（支那事變）、アジア・太平洋戦争（大東亜戦争）の各時期毎に、担当事項と担当者が決められている。ただ○印がついているものはまだ復員していない者であり、資料の「備考」にも「本表分擔ハ更ニ本人ニ付能否検討ヲ要ス」とさ

図表 3 鐵道戦史資料調整分担（案）

事 項		担当事項	担 当 者
滿州事變			鹽島少将
支那事變	1	全般初期	河田大佐
		後期	○守田大佐
	2	滿州関係	三島少将、河村大佐
	3	朝鮮関係	伊藤少将
	4	支那、現地興亜院	安達少将、田中少将、○広瀬大佐、伊藤少将
	5	中支	江口大佐、松本大佐
	6	対滿事務局	田中少将、阿部少将
	7	内地関係	河村大佐、守田大佐
大東亜戦	1	全般	安達少将、加藤（定）少将、佐野中将、久保田中佐
	2	滿州関係	河村大佐、○守田大佐、○来栖中佐
	3	支那北支	○広瀬少将、天野中佐、藤林中佐、○来栖中佐
	4	朝鮮関係	伊藤少将、松本大佐
	5	南方関係	柘植大佐、多田中佐、宮原中佐、鹽谷少佐
	6	内地関係	三原少将、佐野中佐、久保田中佐、井貫少佐
その他		滿州事變・支那事變関係として	安達中将、加藤中佐

（「鐵道戦史資料調整分擔（案）」より作成。○はこの資料作成時点で日本未帰還のものを指す）

れていた。あくまでも出発点における試案だったと言える。

調査担当事項は、「満洲事変」、「支那事変」、「大東亜戦争」の各時期について、全般的事項と、各地域の課題を担当するものとされている（図表3参照）。

③「鉄道戦史資料蒐集計画」は、①の資料の2ヶ月後のものであるが、編纂体制が記述されている点が目新しい点である¹¹。

調査の担当主任者は、安達興助、河村芳治（弁治の誤りか？…児嶋）、久保田茂（連絡主任）、向田林哉（連絡補助）。これらメンバーは運輸省運輸調査局で執務することとなった¹²。

そしてこれら担当者が中心となり、まず10月までをめぐり第一期の資料収集（「資料ノ記述提供」）を行うことにしている。第二期以降については11月上旬に主任者が集まって協議し、東京以外のものを中心に進めることにしていた。

この時点で関係者にどのような資料の提供を求めるかを整理したのが、図表4「主要調査事項」である。第一は「一般関係事項」、第七は「総合的観察」となっており、第二から第六までは、各々「内地鉄道」、「樺太及台湾鉄道」、「満鮮鉄道」、「支那鉄道」、「南方鉄道」となっている。

この基本構成は、「鉄道戦史資料調整分擔（案）」を拡張したものと言ってよいだろう。全般的な課題を冒頭と最後に置き、その間は、内地、満州、南方など地

域ごとに軍事鉄道輸送の展開を扱っている。そして各々の調査項目を各項目、地域ごとに具体的に指示している。

以下ではまず全体を通じて重視された観点を、「一般関係事項」と「八総合的観察」によって確認し、その上で各地域ごとに銃を視された点確認しよう。

「一般関係事項」は8点からなっており、以下のとおりである。

- 一 支那事変勃発当時ニ於ケル内外地交通政策及鉄道整備状態
- 二 支那事変処理ノ為ノ一般政策ト鐵道トノ関係
- 三 鐵道ノ戦時準備（物資総動員関係ヲ含ム）及軍事上ノ要求充ノ程度
- 四 統制經濟下ニ於ケル鐵道ノ運営
- 五 大東亜戦争勃発当時ニ於ケル鐵道整備状況及海運トノ節調
- 六 大東亜戦争間ニ於ケル内外地交通施策ニ伴フ鐵道運営ノ實際及爾他陸運及海運トノ関係
- 七 終戦当時ニ於ケル内外地鐵道ノ状況
- 八 軍事鐵道機関

日中戦争以降敗戦までが取り上げられているが¹³、日中戦争勃発時に関しては（一、二）内地鉄道との関係が重視され、その後については（三、四）総動員体制との関連、戦時統制経済との関連が取り上げられて

図表4 「主要調査事項」

第一	一般関係事項	一 支那事変勃発当時ニ於ケル内外地交通政策及鉄道整備状態
		二 支那事変処理ノ為ノ一般政策ト鐵道トノ関係
		三 鐵道ノ戦時準備（物資総動員関係ヲ含ム）及軍事上ノ要求充ノ程度
		四 統制經濟下ニ於ケル鐵道ノ運営
		五 大東亜戦争勃発当時ニ於ケル鐵道整備状況及海運トノ節調
		六 大東亜戦争間ニ於ケル内外地交通施策ニ伴フ鐵道運営ノ實際及爾他陸運及海運トノ関係
		七 終戦当時ニ於ケル内外地鐵道ノ状況
		八 軍事鐵道機関
第二	内地鉄道	一 支那事変勃発当時ニ於ケル内地鐵道ノ運営一般ト鐵道ノ戦時準備
		二 事変処理ノ為ノ内地鐵道ノ体制準備
		1 総力戦的見地ヨリ觀タル内地鐵道ト軍事上ノ要求充足ノ状況
		2 内地鐵道ノ擔当分野ト外鐵道トノ関係
		3 総力戦的見地ヨリ觀タル内地鐵道ト爾他陸運、海運トノ節調
		4 内地鐵道ノ運営機構
		三 支那事変經過中ニ於ケル内地鐵道ノ状況
		1 統制經濟強化ニ伴フ内地鐵道運営ノ状況
		イ 輸送力整備
		ロ 輸送統制
		ハ 交通電力整備計画
		ニ 企画員設立ト運輸省トノ関係
		2 内地ニ於ケル軍事輸送及総動員輸送
		3 資源トシテノ内地鐵道
		4 陸運統制
		5 港湾及海運トノ関係

		四 大東亞戦争ニ於ケル内地鐵道
		1 大東亞戦争ニ應スル内地鐵道ノ準備状況 2 大東亞戦争遂行計画ニ應スル内地鐵道ノ○準備 3 輸送統制及海運ノ陸運轉嫁 4 資源トシテノ内地鐵道 イ 生産力擴充ノ為ノ鐵道整備及輸送力増強 ロ 外地鐵道整備ノ為人員資材ノ供出 ハ 陸海ヲ一貫スル綜合輸送 5 本土決戦ノ為ノ内地鐵道 6 運輸通信省ノ設立ト内地交通調整 7 輸送統制及軍事輸送 8 防空及空襲下ニ於ケル内地鐵道ノ運営 9 鐵道義勇戰闘隊 10 終戦時ニ於ケル内地鐵道
第三	樺太及台湾鐵道	
第四	滿鮮鐵道	一 滿鮮鐵道ノ管理
		1 滿州事変勃発以前 2 滿州事変勃発以後ノ状況 3 支那事変勃発以後ノ状況
		二 支那事変勃発當時ニ於ケル滿鮮鐵道ノ経営状態
		三 支那事変遂行ノ為ノ滿鉄ノ協力
		四 北方作戦ノ為ノ滿鮮鐵道ノ準備 (滿州事変後及獨蘇戦開戦以後ノ実績ヲ主トス)
		五 滿洲ニ於ケル經濟開發ニ伴フ鐵道ノ整備 (滿洲ニ在テハ第一次第二次五ヶ年計畫ニ關スルモノヲ主トス)
		六 大東亞戦争間ニ於ケル滿州鐵道ノ運営
		七 大東亞戦争間ニ於ケル朝鮮鐵道及港湾ノ整備及運用
		八 終戦當時ニ於ケル滿州鐵道ノ状況
		九 輸送統制及軍事輸送ノ處理
		一〇 鐵道ノ戦時準備及防空
第五	支那鐵道	一 支那事変勃発時ニ於ケル支那鐵道處理法案
		二 作戦ノ進展ニ伴フ北支鐵道ノ開拓及整備
		1 支那駐屯軍ノ鐵道處理ト關東軍滿鉄機關ノ援助 2 鐵道隊ノ派遣ト滿鉄北支事務局及在来鐵道機關トノ關係 3 人員資材ノ鐵道供出 4 經理ニ關スル特別處理事項
		三 作戦ノ進展ニ伴フ中支鐵道ノ整備使用
		1 一般方針 2 鐵道隊ノ派遣使用 3 人員資材ノ派遣補給 4 中支鐵道ノ運営
		四 作戦ノ進展ニ伴フ南支鐵道ノ整備利用
		1 當初ノ方針 2 鐵道隊ノ派遣使用 3 南寧線ノ使用 4 人員資材ノ派遣使用
		五 鐵道官理ノ状況
		六 支那鐵道ノ経営 華北交通會社、華中鐵道會社
		七 輸送統制及軍事輸送ノ處理
		八 大東亞戦争間ニ於ケル状況
		九 終戦當時ニ於ケル支那鐵道
第六	南方鐵道	一 大東亞戦争勃発時ニ於ケル南方地域鐵道ノ處理方針
		二 作戦ノ進展ニ伴フ鐵道ノ占領、管理
		1 一般状況 2 佛印、泰ノ鐵道 3 馬來、緬甸、「スマトラ」、「ジャワ」、比律賓ノ鐵道 4 泰緬鐵道、「クラ」鐵道、「スマトラ」横断鐵道ノ新設使用 5 鐵道隊、軍事鐵道機關及軍政機關並に在来鐵道機關ノ相互關係 6 鐵道特ニ船舶輸送トノ調整 7 人員、資材ノ派遣供出

		三 防衛策戦下ニ於ケル南方諸鐵道ノ経営 1 軍政下ニ於ケル南方諸鐵道ノ経営 2 南方軍野鐵ノ管掌區域ト爾他鐵道ノ運営區分 イ 緬甸 ロ 佛印、泰及馬來 ハ 「スマトラ」 ニ 「ジャワ」 ホ 比律賓 3 作戰ニ即應スル態勢轉移 イ 總軍、方面軍又ハ軍交通部ノ管掌業務 ロ 輸送統制 ハ 鐵道防空 ニ 泰、佛印鐵道ノ處理 ホ 南支、佛印、泰ヲ一貫スル鐵道ノ輸送計畫
第七	綜合的觀察	一 作戰遂行上ヨリ觀タル外地鐵道ノ管理運用 二 總力戰指導上ヨリ觀タル内、外地鐵道ノ運営 三 戰時輸送並戰時統制經濟下ニ於ケル鐵道運営 四 本土決戦上ヨリ觀タル内地鐵道 五 鐵道ト港湾並爾他陸運經營トノ關係 六 鐵道ト防空 七 軍事鐵道機關 八 其ノ他

（「鐵道戰史資料蒐集計畫 別紙第二 主要調査事項」）（「鐵道戰史資料蒐集計畫 別紙第二 主要調査事項」）

いる。

アジア・太平洋戦争勃発時には、やはり内地鐵道との関係が取り上げられ（五）、その後については鐵道運営の実態や、他の陸運や海運との関係が取り上げられている（六）。戦時下での海上輸送との連携や、海上輸送からの陸運への転嫁の問題等があったためと考えられる。そして最後に敗戦時の状況（七）と軍事鐵道機関をあげている（八）。

戦争勃発時に内地鐵道との関係が取り上げられていることは、鐵道省、朝鮮鐵道、滿鉄と連携しなければならなかった日本の軍事鐵道輸送において、やはり内地の鐵道が基本だったことを示していると思われる。

全体の総括部分に当たる「第七 綜合的觀察」には下記の八項目が調査項目としてあげられている。

- 一 作戰遂行上ヨリ觀タル外地鐵道ノ管理運用
- 二 總力戰指導上ヨリ觀タル内、外地鐵道ノ運営
- 三 戰時輸送並戰時統制經濟下ニ於ケル鐵道運営
- 四 本土決戦上ヨリ觀タル内地鐵道
- 五 鐵道ト港湾並爾他陸運經營トノ關係
- 六 鐵道ト防空
- 七 軍事鐵道機關
- 八 其ノ他

ここでは日中戦争から敗戦に至るまでの、鐵道輸送上の課題が列挙されている。一では作戰遂行の際の「外地鐵道」の管理運営の問題。二では総力戦との関連、

三は戦時輸送・戦時統制經濟との関連が取り上げられている。四では「本土決戦」との関連が取り上げられている。実際には実施されなかったが本土決戦に際してどのような輸送計画を立てていたのかは今日でも興味深い点である。五は港湾や他の陸上輸送機関－自動車等－との関係。六は防空の問題－資料としてはかなり残っている。七は「軍事鐵道機関」、八は「其ノ他」となっている。

「一般關係事項」と比較すると、総動員との関係、戦時統制經濟との関係、内外地鐵道運営の実態、港湾（海運）や他の陸上輸送機関との関連、そして軍事鐵道機関の活動、といった観点が共通している。鐵道の運用の実態と、戦時体制の推移との関係、そして鐵道輸送に関連した軍事機構が重視されていたと言えるだろう。

2）各地域別調査項目の特徴

ここでは内地鐵道から南方鐵道までの、各地域ごとの調査項目の傾向を整理する。

「第二 内地鐵道」については、日中戦争全面化当初の対応が「一 支那事变勃発当時ニ於ケル内地鐵道ノ運営一般ト鐵道ノ戦時準備」「二 事变処理ノ為の内地鐵道ノ体制準備」としてまとめられている。とくに後者は、「1 総力戦的見地ヨリ觀タル内地鐵道ト軍事上ノ要求充足ノ状況、2 内地鐵道ノ擔当分野ト外地鐵道トノ關係、3 総力戦的見地ヨリ觀タル内地鐵道ト爾他陸運、海運トノ節調、4 内地鐵道ノ運営機構」を扱うとしており、総力戦体制に移行する過

程での、鉄道運輸の問題を全体的に扱う予定だったことがうかがえる。

日中戦争の経過に伴う変化に関しては、「三 支那事変経過中ニ於ケル内地鐵道ノ状況」が扱う予定であった。そこでは「統制経済」が強化される中で、輸送統制を実施しつつ、どのように輸送力整備を進めるかを検討する予定だったように思われる。

アジア太平洋戦争期については「四 大東亜戦争ニ於ケル内地鐵道」が取り扱っている。ここでは陸運転嫁の問題や、生産力拡充との関係、外地鐵道への人材や資材の提供、そして何より輸送統制・軍事輸送の問題など、広範な問題を取り扱う予定であった。

このように内地鐵道に関しては、戦争の全期間にわたって、本土として中核的機能を持ったため、日本での統制経済の推移などとどのような関連を持ちつつ、戦局の推移に対応したかが課題とされた。

「第三 樺太及台湾鐵道」に関しては具体的な記述がない。

「第四 満鮮鐵道」は満洲事変、日中戦争全面化、そしてアジア太平洋戦争期にわたる鐵道の運営・管理が取り上げられている。タイトルで興味深いのは「北方作戦ノ為ノ満鮮鐵道ノ準備」なる項目があることである。関東軍特種演習など日本陸軍に対ソ戦の構想があったのは周知のことであるが、鐵道面でそれに対応した動きがあったことを示していると言えよう。

「第五 支那鐵道」は日中戦争全面化に伴う関東軍や満鉄の支援から始まり、作戦の拡大に伴う華中、華

南への侵出に伴う鐵道側の対応が取り上げられている。また華北交通や華中鐵道も取り上げる予定であった。

「第六 南方鐵道」では、広範な作戦地域での活動を①当初の進攻の時期と、②防衛に転じざるを得なくなった時期に分けて整理する予定であった。

以上全体を通じて、戦争の性格、作戦展開地域の違いによって、各々調査すべき内容は異なっている。しかし全体の問題が集約される内地に関しては、戦時統制、生産力拡充、戦局の悪化とそれに伴う輸送体系の転換といった諸問題が集中していたことが分かる。しかしこれらの問題が、ここでの予定通りに調査されることはなかった。それを次に見ることとしたい。

3 防衛省戦史部図書館所蔵資料の現状

実際に残された資料について確認したい。図表5「防衛省戦史部図書館蔵『軍事鐵道記録』所収資料一覧」をご覧ください。これは図表1「防衛省戦史部図書館所蔵・戦時鐵道輸送関係資料」に含まれる「軍事鐵道記録」（全6巻）に、どのような資料が含まれているかを具体的に示したものである（雑1～3は全6巻に含まれている資料と、重複したものをファイルしている）。

第1巻にはすでに紹介した本資料に関する経緯を記した河村弁治「軍事鐵道記録に関する経緯並その経過」

図表5 防衛省戦史部図書館所蔵「軍事鐵道記録」所収資料一覧
（「作成年月日」欄に（欠）とあるのは資料がないことを示す）

巻 数	項 目	資 料 名	作成年月日	執 筆 者
第1巻	一 ①	軍事鐵道記録編纂に関する経緯並その経過	不詳	河村弁治
	②	鐵道戦史資料（調査要領、調査分担、収集計画）	1946.6/8/10 1947.6?	同上と思われる
	二 ①	満洲事変及其以前に於ける鐵道施策の概要	(欠)	
	(参考) ②	満洲事変迄の鐵道に対する軍統帥部戦時運用準備の回顧	1950.2	安達與助
	③	満洲における鐵道管理	1947.3	河村弁治
第2巻	③	軍事輸送関係資料		安達與助
	1 ①	日支事変における鐵道戦史	1947.3	安達與助 (服部史料は－487合冊)
	2 ①	日支事変における鐵道戦史	(欠)	安達與助
		同上 (自昭一三、四下旬 至同一四、一二下旬)	1947.3	浅谷實次 (服部史料は－788合冊)
	②	支那事変後半北支鐵道戦史	(欠)	柳原 廣 (未帰還)
	3 ①	(中支鐵道) (1)	(欠)	江口康平 (未帰還)
	4 ①	(南支鐵道)	(欠)	柳原 廣 (未帰還)
	5 ①	(朝鮮鐵道)	(欠)	伊藤義郎 (未帰還)
	6 ①	満洲における鐵道管理	(欠)	河村弁治

	②	自昭和十三年至十六年 対満事務局の満鉄の指導	1947.1	阿部芳光 (服部史料は－ 472 合冊)
	③	自昭和十四年至十七年 満洲における鉄道の整備	1948.8	河村弁治
	④	満鉄指導の実相 (未完)	(欠)	今村一二
	7 ①	(未完)		
	8 ①	支那事変初期内地鉄道に於ける軍事輸送	1947.3	安達與助
第3巻	四	大東亜戦争		
	1	大東亜戦争間における大本営の軍事鉄道施策の概要 *②第二篇 参照		
	①	大東亜戦争における鉄道戦史	1947.3	安達與助 (服部史料は－ 489 合冊)
	* ②	大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其一 (第二篇)	1947.3	久保田茂は－ 490 合冊
	2 ①	内地鉄道 大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其一 (軍事鉄道記録其一第三 編第一節参照)	1947.3	久保田茂 (同上)
	3 ①	樺太・台湾鉄道 大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其二 (第三編第二節) (注 第 二篇第三節の誤りか?)	1947.2	佐野常光 (服部史料は－ 491 合冊)
	4 ①	朝鮮鉄道 朝鮮鉄道関係資料	1949.1	河村弁治
	②	大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其二 (第三編第三節) (注 第 二篇第三節の誤りか?)	1947.2	佐野常光 (服部史料は－ 491 合冊)
	③	(記載なし)	(欠)	松木宗二 (未帰還)
	5 ①	満州鉄道 大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其二 (第三編第四節) (注 第 二篇第三節の誤りか?)	1947.2	佐野常光 (服部史料は－ 491 合冊)
第4巻	②	自昭和十四至昭和十七 満洲における鉄道整備	1948.8	河村弁治
	③	大東亜戦争末期における満州鉄道	(記載なし)	守田政之
第5巻	6 ①	満州鉄道 大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其二 (第三編第四節) (注 軍 事鉄道記録第3巻9参照 / 5①を指す…児嶋)	1947.2	佐野常光 (服部史料は－ 491 合冊)
	②	大東亜戦争に於ける支那鉄道の全般	(欠)	藤村芳一
	③	湘桂作戦鉄道史 (自作戦初期～二〇年五月)	1948.5	今村一二
	④	平漢作戦鉄道史	(欠)	柳原廣
	7 ①	南方鉄道 大東亜戦争間に於ける軍事鉄道記録其三 (第 編第五節)	1948.3	久保田茂
	②	爪哇鉄道戦史	1947.7	浅谷實次
	③	「スマトラ」鉄道状況	1947.1	河村弁治
	④	緬甸作戦鉄道戦史 (自作戦初期至昭和十七、一)	1947.3	今村一二
	⑤	馬來作戦 (泰佛印を含む) に応ずる鉄道戦史	(欠)	本郷 健
第6巻	五	鉄道防空		
	1 ①	内地鉄道防空資料	1948.1	阿部芳光
	2 ②	大東亜戦争内地鉄道の防空戦史 (関東地区を主とする)	1947.8	浅谷實次 (服部史料は－ 495)
	3 ③	九州地区における鉄道防空	1948.2	今村一二
	4 ④	満洲における鉄道防空	1947.12	今村一二
	5 ⑤	中支における鉄道防空	1947.12	今村一二
	6 ⑥	鉄道防空 首題「スマトラ」鉄道状況 (附鉄道防空)	1948.9	河村弁治
	六	軍事鐵道機関		
	7 ①	大東亜戦争間における軍事鉄道記録其四	1948.9	久保田茂
	七 8	軍政的に見た鉄道記録 (未完)	(欠)	弘中辰夫
	八	結論		
	9 ①	自満洲事変末期至大東亜戦争初期 鉄道に於いての総合的觀察	(記載なし)	河村弁治
	②	陸運防空対案	(記載なし)	河村弁治

(「軍事鉄道記録」1～6巻に付された目次に基づいて再整理したもの)

(1) 項目名のみで資料名がない。以下同様の場合も () を付す。

等が一の①②として入っている。他には「満州事変までの鉄道に関する軍統帥部戦時運用の回顧」(安達與助¹⁴)、「満州における鉄道管理」(河村弁治)、「軍事輸送関係資料」(安達與助)が入っている。また「満州事変及其以前における鉄道施策の概要」が予定されていたものの収められていない。

第2巻は「支那事変」関係の資料を収めている。具体的には、安達與助「日支事変における鉄道戦史」(1947年3月、服部史料は-487合冊¹⁵)、「支那事変初期内地鉄道に於ける軍事輸送」(1947年3月)、浅谷實次「日支事変における鉄道戦史」(1947年3月、服部史料は-788合冊)の三点である。

ただこの巻では華北、華中、朝鮮に関する資料が軒並み抜け落ちている。理由の一つは執筆予定者のうち、柳原廣¹⁶、江口康平¹⁷、伊藤義郎¹⁸の三名が未帰還だったことがあろう(ただ安達や河村も予定稿を残していない)。

また「支那事変」と銘うちながら満州関係の資料も収められている。阿部芳光¹⁹「自昭和十三年至十六年

対満事務局の満鉄の指導」、河村弁治「自昭和十四年至十七年 満洲における鉄道の整備」、そして欠けてはいるが今村一二²⁰も「満鉄指導の実相」を執筆予定であった。このほかには久保田茂²¹が「内地鉄道」を担当している。本資料も服部史料である。

第3巻は「大東亜戦争」である。この間は比較的良く予定通りに史料がおさめられているとともに、服部史料の割合が高いことが特徴となっている。残されている史料では河村弁治の「朝鮮鉄道関係資料」以外はすべて服部史料である。注15に書いておいたとおり、河村らは復員局で資料の収集にあたっていた服部卓四郎の指導のもとで一時期資料編纂をおこなっており、その結果鉄道資料にも服部の成果が組み合わさることとなっている。これら服部史料は、アジア太平洋戦争期の内地、満州、朝鮮、樺太、台湾に関する記述を残している。なお松本宗二(未帰還)の資料はタイトルもなく史料本体もない。

第4巻は河村弁治の「自昭和十四至昭和十七 満洲における鉄道整備」と守田政之の「大東亜戦争末期における満州鉄道」の二点である²²。両資料を合わせることで、満洲の鉄道の運営上・作戦上の課題について、当時の陸軍参謀がどのように考えていたかよく理解できるものとなっている。

第5巻は南方の鉄道に重点がある。中国に係るものでは、佐野常光の「満州鉄道」、今井一二の「湘

桂作戦鉄道史」があるだけである(柳原廣「平漢作戦鉄道史」は「欠」である)。

南方関係では全般を扱った久保田茂の「南方鐵道」があり、その他浅谷實次がジャワ、河村弁治がスマトラ、今村一二がビルマを扱っている。またその他本郷健²³がマレーを扱う予定であったが資料は残っていない。

第6巻は「五 鉄道防空」「六 軍事鐵道機関」「七 軍政的に見た鉄道記録(未完)」「八 結論」である。鉄道防空については、阿部芳光「内地鉄道防空資料」、浅谷實次「大東亜戦争内地鉄道の防空戦史」(服部史料)、そして今村一二が担当した九州、満州、中支における鉄道防空関係の資料が残されている。河村弁治もスマトラに関して鉄道防空資料を残している。

「六 軍事鐵道機関」は久保田茂が「大東亜戦争間における軍事鐵道記録其四」を残している。弘中辰夫²⁴が担当した「七 軍政的に見た鉄道記録(未完)」は残念ながら欠落している。最後の「結論」は河村弁治の「自満洲事変末期至大東亜戦争初期 鉄道に於いての総合的觀察」と「陸運防空対案」が残されている。

おわりに

以上残された史料をみると、執筆者は大方自らが担当した分野、活動した地域に関して史料を残している。また服部史料にも多くを依存している。ただ服部の活動と鉄道関係資料の整理作業との関係については、十分明らかにはなっていない。

次に防衛省戦史部図書館のこの資料群では、中国戦線に関する資料が、湘桂作戦などごく一部を除いて大きく欠落しており、その点ではかなり限界があるともいえよう。当初の計画通りにはとても進まなかったのである。

【註】

- 1 なお満州、満州国といった用語には「」を付すべきであるが、煩瑣になるため省略する。又支那という表現も歴史的資料の一部として引用する場合にはそのまま用いる。
- 2 河村弁治は士官候補第34期(工兵、大正11年7月28日陸軍士官学校卒、同年10月25日任官)。以後陸軍内で鉄道の専門家としてキャリアを積んだ。1937年、大本営運輸通信長官部参謀(参謀本部第

- 三部運第九課・鉄道担当兼任)。その後関東軍司令部第三課(兵站担当)参謀(鉄道担当・少佐 1939年)となり、その後第19軍高級参謀(南方)、第55師団参謀長(南方)、第四特設司令部高級部員を経て、敗戦時は仙台地区鉄道司令官(大佐)であった。(以上『陸海軍将官人事総覧 芙蓉書房、1989年及び『帝国陸軍編成総覧 第1巻』芙蓉書房、1993年の426～433頁による)。
- 3 「中央、全般、鉄道、7」
 - 4 河村弁治「軍事鉄道記録編纂に関する経緯並その経過」による。
 - 5 旧陸海軍省廃止(1945年12月1日)の後、旧陸軍省は第一復員省、旧海軍省は第二復員省となり、復員業務のみ引き継がれた。その後復員業務は復員省を経て、厚生省に継承され、当初の第一、第二復員省は、各々第一、第二復員局となった。
 - 6 これら陸海軍文書の返還経緯については田中宏巳編『米議会図書館所蔵 占領接收旧陸海軍資料総目録』(1995年現在 東洋書林/発売・原書房)の「解説 米議会図書館(LC)所蔵の旧陸海軍資料について」を参照されたい。また外務省関係資料館に関しては、外交資料館が関係の資料(開示資料)を所蔵している。CD-R 04-1209～1212に入っている。
 - 7 「鉄道関係主要部隊長・幕僚一覧表 昭和二十、八、一五、第十課」なおこの資料は、「支那事変・大東亜戦争間動員概史(草稿)」所収の「内地鉄道部隊編成並兵力表」「外地鉄道部隊編成表」(どちらも1945年8月15日現在)と内容が一致している。(大江志乃夫編・解説/家永三郎序『支那事変・大東亜戦争間動員概史』不二出版 1988年)
 - 8 この「？」は資料に記載されているものである。
 - 9 前掲河村弁治「軍事鉄道記録編纂に関する経緯並その経過」による。
 - 10 以下の記述は「別冊 鉄道史実調査要領 昭和二一、六」(「軍事鉄道記録 第一巻」所収)による。
 - 11 「三、調査業務擔当社及執務」
 - 12 この資料には運輸省本省や、復員局など必要な連絡先の電話番号が記載される等、実的な作業を念頭に置いた資料だったことが分かる。
 - 13 なお「第四 満鮮鉄道」には満洲事変以前、及び満洲事変期が調査項目にあがっており、満洲事変期も内容的には調査対象になっている。
 - 14 安達與助は士官候補第30期、歩兵、山形県出身。

1937年8月26日北支方面軍参謀、翌38年12月15日興亜院調査官、40年3月9日参謀本部鉄道課長、42年3月11日歩兵第224連隊長等を経て、44年12月16日第三鉄道監、45年1月20日大陸鉄道参謀長となった後、5月29日門司地区鉄道司令官となる。敗戦時の階級は少将(前掲『陸海軍将官人事総覧』による。以下旧陸軍将校の経歴は全て本書による)。

- 15 本資料には「服部史料」と記号がふられている。服部とは服部卓四郎のことであり、服部と防衛省戦史部史料との関係については、防衛省戦史部のホームページ(<http://yokohama.cool.ne.jp/eseach/sankou.html>)が次のように述べている。

「服部卓四郎大佐は昭和16年7月から昭和20年2月まで参謀本部作戦課長(途中陸軍大臣秘書官)を勤め、戦後復員省史実調査部長-復員局資料整理部長として大東亜戦争の資料収集と整理を行った。その後、講和条約発効と相前後して公的機密書類が集まりはじめ、昭和28年4月に史実研究所を設立と同時期に「大東亜戦争全史」を出版した。…服部卓四郎と…初代戦史室長 西浦進とは陸士同期である。(陸大も42期同期で西浦は首席、服部が恩賜優 史実研究所の設立も協同してあたった)その後、史実研究所の史料はすべて防衛研修所に移管された。即ち服部卓四郎の資料は西浦進によってそのまま引き継がれ、「戦史叢書」の基礎となったのである。」

すでに河村弁治の「軍事鉄道記録編纂に関する経緯並その経過」によって本史料編纂の経緯を紹介したが、その中でも一時復員局整理部の指導のもとで編纂を進めた点とある。同時期復員局で服部が資料の収集に努めていた点であるから、一時は服部の指導のもとで、あるいは連携しながら資料編纂につとめたと推定できる。「服部史料」が「軍事鉄道記録」に含まれ登場するのはこのような経緯を反映したものと考えられる。

なお周知の服部卓四郎編著『大東亜戦争全史』(原書房、1965年)は上の引用にある通り、この作業の結果生まれたものである。

- 16 柳原廣は士官候補第38期、工兵、高知県出身。1942年8月31日、関東軍野戦鉄道部参謀。44年12月16日、大陸鉄道司令部参謀件朝鮮軍参謀。45年2月20日、第二野戦鉄道司令部参謀長。敗戦時大佐。
- 17 江口康平は士官候補第33期、歩兵、福岡県出身。

- 1939年1月16日、陸軍省整備局交通課高級課員、41年7月31日企画院調査官等を経て、45年5月29日第13方面軍参謀（鉄道主任）。敗戦時大佐。
- 18 伊藤義郎は士官候補第31期、歩兵、三重県出身。41年7月18日、第二野戦鉄道司令部参謀、45年3月19日第五鉄道監。敗戦時少将。
- 19 阿部芳光は士官候補第32期、歩兵、愛媛県出身。第38師団参謀長などを経て、1944年7月8日内地鉄道司令部参謀長。45年5月29日広島地区鉄道司令官。敗戦時少将。
- 20 今村一二（はるじ）は士官候補第34期、工兵、鳥取県出身。第15軍参謀などを経て、1944年2月14日第四野戦鉄道司令部参謀長。45年5月29日、第16方面軍参謀件門司地区鉄道参謀長。敗戦時大佐。
- 21 久保田茂は士官候補第44期、歩兵、静岡県出身である。1941年10月15日、大本営運輸通信長官部（第10課）参謀。敗戦時は中佐。
- 22 河村の資料は『長岡大学 生涯学習研究年報』第1巻（2007年3月）に「戦時期満州の鉄道輸送」として、また守田の資料は『長岡大学 研究論叢』第5号、2007年7月に「守田政之『大東亜戦争末期における満州鉄道』の紹介」として、各々紹介しているので参照されたい。
- 23 本郷健は士官候補第36期、砲兵、大分県出身。1941年3月1日陸大教官、同年7月7日参謀本部部員を経て、41年10月6日第25軍参謀。42年3月16日には再び陸大教官。
- 24 弘中辰夫は士官候補第38期、工兵、山口県出身。1939年1月16日、陸軍省兵務局員兼整備局員。その後第19軍参謀などを経て、45年1月20日、兵站総監部参謀（船舶班長）。敗戦時は大佐。